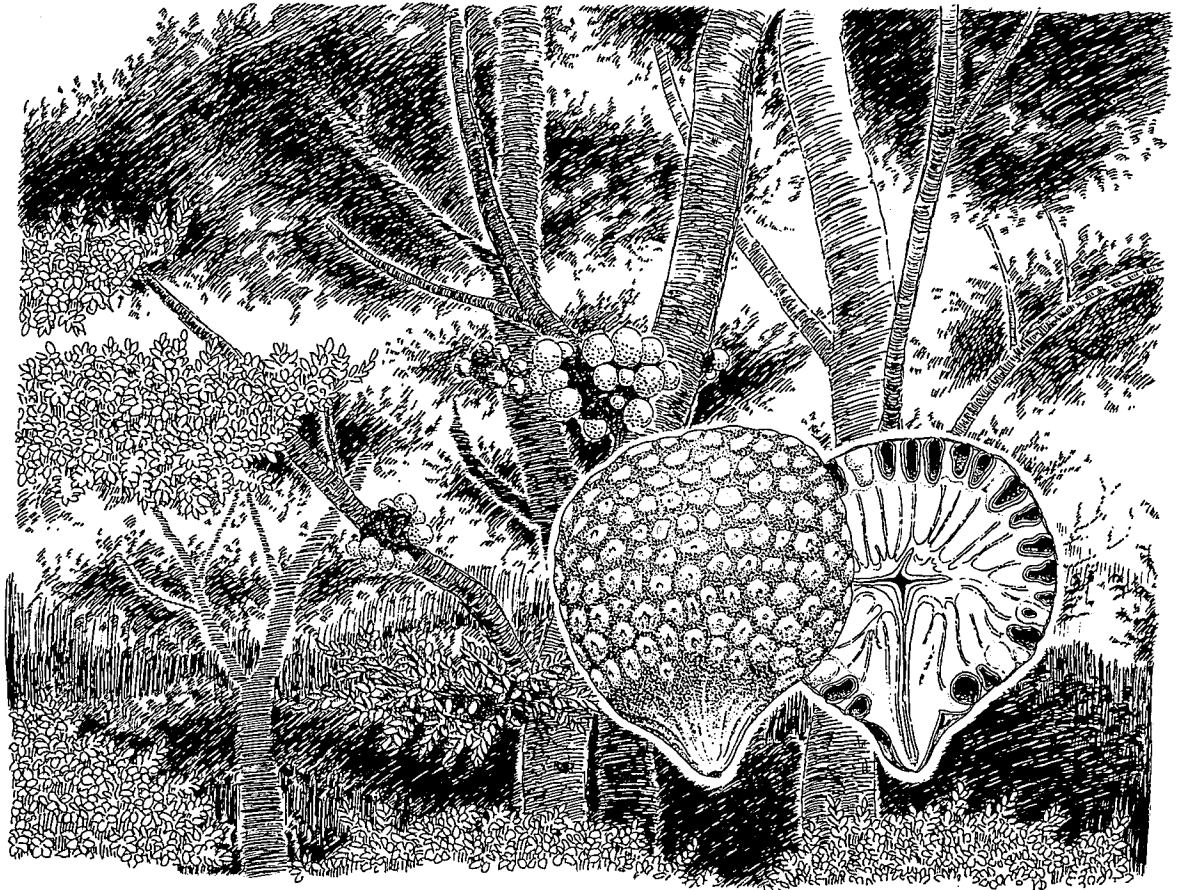


関西菌類談話会会報

1989年6月 No.5



キツタリア (図 大西 裕司)

春のきのこ キツタリア

横山 和正

この図のキツタリアは、キツタリア・ハリオットイ (*Cyttaria hariotii* Fisher) というオレンジ色をした大変美しい種類です。ちょうどピンポンの球程度の大きさで、あたかもナンキョクブナにみかんが鈴なりになったように群生していました。この種の子実体は球状で、成熟すると表面の薄い膜は破れ、クレーターのように穴があき、そこからオリブ色の子のう胞子を放出します。また成熟するにともない芳香を出します。内部は透明な寒天状の肉がつまっっていて、中心に一本白色で太い菌糸の束があり、これがこぶ状にふくれた

枝の中に侵入しています。現地の人はディゲーニヤと呼んで食用にしています。春になると、南の地方から運ばれてきて、首都サンチャゴの市場でも売られ、都会の人でもサラダなどにして春の味覚を楽しんでいます。

キツタリアの仲間は南半球特有のきのこで、南米、ニュージーランド、オーストラリアに分布が限られています。現在世界に11種知られていて、そのうち南米に7種、ニュージーランドに2種、オーストラリアに2種が分布しています。いずれも種々のナンキョクブナ類の幹や枝から発生し、この種のように枝にこぶを作る種と作らない種とがあります。

この図はアメリカ大陸南端の町、チリのプンタアレナスから更に南へ60kmばかり行ったブルンスビック半島で1981年12月13日撮影したスライドと、液漬標本をもとに描いていただきました。

生産物の命名法

奥田 徹

菌類に限らず、生物の命名にはその生物が属する分類群の国際命名規約が存在し、それを守らなければ有効名とならないのは御存知であろう。ところが生物の生産する代謝産物（抗生物質、トキシン、その他の多様な生理活性物質）の命名に関しては、そのような規約はなんら存在しない。そこで、研究者は自分らが発見した物質に愛情を込めて様々な名前を与えるわけである。一見無秩序に見えるこの「命名法」は、しかしながら接してみるとなかなか楽しいものがあるので、ここに紹介してみたい。

生産物の名前で、先ず気が付くのは、多くが「N」または「NE」、即ち「N」で終わることである（penicillin, streptomycin, glycin(e) など）。代謝産物の52%がこれらに相当する。これは生物の生産物に限らず、無機物質、元素（hydrogen, carbon, fluorine, argon）など多くのものに通じるものなので、恐らくその起源はギリシャ・ローマ時代に遡るのではないかと想像される。

多くの代謝産物の名前は、その生産菌の学名に由来する。有名な抗生物質、streptomycin は *Streptomyces griseus* から得られた。その後、本属は抗生物質の宝庫となり、数千の抗生物質が発見されたが、ほとんどが「mycin」の語尾を持っている。つまり、規約があるわけではないが、「mycin」の語尾を持っていれば、*Streptomyces* から取られたものであると判断できるわけである。その後、別の放線菌 *Micromonospora* の生産物は、しばしば「micin」の語尾が付けられるようになった（gentamicin, astromycin など）。これも発音では「マイシン」と呼べるので、時に誤記されることがある。

菌類の代謝産物も同様に学名、それも属名を用いたもの、特に「IN」の語尾を持つものが多い。penicillin は *Penicillium* より、cephalosporin は *Cephalosporium*（現在の *Acremonium*）より、amanitin は *Amanita* より、trichodermin は *Trichoderma* より、gibberellin は *Gibberella* より得られたものである。既に属名に由来する物質が存在する場合には生産菌の種小名を命名に用いることもある。*Aspergillus aculeatus* の aculeacin, *Penicillium citrinum* の citrinin（これは実は penicillin よりも発見が早い）等である。さらに属名と種小名両方を用いた命名がある。*Aspergillus flavus* の aflatoxin, *Alternaria kikuchiana* の AK-toxin, *Trichoderma viride* の trichoviridin 等がそれに相当する。

学名を名称の一部に用いない場合は、多くはその物質の構造、性質を基にして命名されている。

属名と構造の両者を融合して命名されたものも多い。*Fusarium nivale* の nivalenol, *Trichoderma* の trichodermol はそれぞれの属名と、アルコールの構造を示す語尾「ol」を融合したものである。古いものでは日本語の菌名と構造を融合したコウジカビの kojic acid

（和名は 麴酸）がある。

これらに対して、無味乾燥な名称もある。以前、抗生物質学術協議会の方と話をしたときのことであるが、Compound A とか B というのは結構多く、それ自体は中性的で意味がないので困ることがあるということであった。また仕方のないことであるが、企業の場合、しばしば特有の整理番号がある。藤沢薬品の FR 番号、Squibb の SQ 番号、Roche の RO 番号等、企業の中でシリアル番号が付番され、部外者には無味乾燥に思えるわけである。しかし、関係者にとってはこの無味乾燥な番号も、長く関わっていたり、苦勞したりした場合は、時として何とも懐かしいものとなる。私事で恐縮であるが、我々が発見した penitricin（この名前も、先の属名と構造を融合したもので、*Penicillium aculeatum* からとられた三角形の構造の cyclopropenone 骨格を持つものである）は RO 09-0804 と呼ばれていた。1973年以來、物質の存在はわかっているが、本体はなかなか単離精製できず、幻の物質「ハチマルヨン」と称していたものである。精製技術の向上その他の結果、やっととれた本物質はきわめて不安定で、 -80°C でなければ保存できないものであった。我々にとっては penitricin よりハチマルヨンのほうが親しみがあるというわけである。

さて、以上の「命名法」以外に、まったく無関係の名称を用いるものが稀にある。例えば、figaroic acid complex, bohemic acid complex と呼ばれる anthracycline 抗生物質がそれである。何れもオペラの名前をとったもので、前者はモーツァルトの「フィガロの結婚」、後者はプッチーニの「ラ・ボエーム」の名前に由来する。特に後者は、各コンポーネントに「ボエーム」の登場人物の名を付け、mimimycin（ミミ）、rodolfo-mycin（ロドルフォ）、musettamycin（ムゼッタ）、alcindoromycin（アルチンドロ）としている。よくこんな名前を付けたなと思う一方、少なくとも、音楽が好きな筆者にとっては楽しいものである。但し、常々残念だと思うのは、この bohemic acid complex の生産菌が *Actinosporangium* という放線菌であることである。これが、もし *Puccinia*（御存知のように、作曲家プッチーニと同名のイタリアの菌学者の名を記念して命名されたサビキン）であったなら完璧であったのに。

ヨーロッパの

栽培きのこ研究所めぐり

衣田 雅人

1. はじめに

昨年9月3日から25日までの23日間、海外派遣研修として西ドイツ、オランダ、フランス、スイスの栽培きのこ関係の研究機関や生産施設、きのこマーケットを訪問した。ここでは、主に研究機関の現状について紹介する。

2. 西ドイツ

西ドイツでは1987年に国際食用きのこ会議が開催さ

れたニーダーザクセン州ブラウンシュヴァイクの国立農業研究所土壤微生物研究施設とノルトラインヴェストファーレン州クレフェルトの栽培きのこ研究所を訪問した。

国立農業研究所ではきのこが土壤微生物の分野に属し、研究者24人のうち4人がきのこを担当していた。ここでは基礎研究が中心であるが、マッシュルームやヒラタケ、シイタケなどの栽培技術についても研究が進められていた。興味深いテーマとして、ヒラタケとある種のバクテリアを同時に培養することにより、他の雑菌混入を防ごうとする研究が行われていた。ヨーロッパのヒラタケ栽培では、培地の殺菌は85℃で3日間蒸気殺菌したあと作業場で接種するので雑菌が混入する。そこで、ある種のバクテリアを同時に接種すると、ヒラタケ菌糸の伸長が遅れるが他の雑菌が混入しないということから、これを実際の栽培に取り入れようというわけである。

クレフェルトの栽培きのこ研究所は、ラインラントの農業団体が州から半額補助を受けて運営しており、畜産試験場と果樹指導所が併設されている。この研究所でもマッシュルームやヒラタケ、シイタケの栽培技術についての研究が進められている。また、ヨーロッパで問題となっている酸性雨対策として、ブナやトウヒの苗に酸に強い菌根菌をつけ、その苗を植林しようとする研究も進められていた。この研究所は国立農業研究所よりも実際のテーマに取り組み、技術指導も行っていた。

3. オランダ

この国では、ドイツ国境に近いホルストという小さな町にあるきのこ栽培試験場を訪問した。この施設はオランダで唯一のきのこ栽培技術に関する研究機関で、マッシュルーム生産者を対象としたトレーニングセンターや学校も併設されている。1957年にマッシュルーム生産組合が設立したこの施設は、政府から50%の補助を受けて運営され、マッシュルームの栽培技術、育種、病虫害などについての研究が行われている。職員40名のうち、10名が研究や指導に従事している。

4. フランス

フランスでは、ボルドーの国立農業研究所きのこ研究施設とツール近郊サンパイエンヌのきのこ栽培技術センターを訪問した。

国立農業研究所きのこ研究施設では、9人の研究者とそこで卒論の指導を受けている10人の学生がいた。主な研究テーマは、マッシュルームの栽培技術、育種、病虫害をはじめヒラタケやシイタケ、ムラサキシメジの栽培化と菌根菌のトリュフやチチタケ属のある種の栽培化である。ヒラタケやシイタケは穴のあいたビニール袋に10kgのコンポスト[※]を入れて栽培され、子実体はその穴から発生する。ムラサキシメジはプラスチックの箱に詰められたコンポストから発生していた。トリュフはカシヤハシバミに、チチタケ属の1種はアカマツに菌根形成を試みている。

きのこ栽培技術センターはマッシュルーム生産者が運営しており、研究者8名で生産者からの要望が多いテーマについて研究している。ここでは研究費の一部を補うため、1,200㎡の洞窟を利用してマッシュルームを生産していた。

5. スイス

スイスではローザンヌ大学植物分類地理学研究所とチューリッヒの国立農業研究所を訪問した。

ローザンヌ大学では、本会の会員である村上さんに案内して頂いた。ここではきのこの生態と分類が研究され、とくにハタケシメジの形態のバラツキの幅が広いことから、シメジ属の分類の見直しが検討されている。

国立農業研究所では園芸研究室で1人の研究者が栽培きのこの研究をしていた。スイスは国土が狭く、きのこ生産量も少ないので、政府は栽培きのこの研究に力を入れてくれないとのことであった。ここでは針葉樹のおが屑を利用したシイタケのブロック栽培が検討されていた。

6. まとめ

ヨーロッパ各国ではきのこ研究機関はそれほど多く設置されていないが、1ヶ所に多くの研究者と補助員が集められ、効率的に研究が進められていた。また、研究機関の役割の1つとして、学生の受け入れや大学への非常勤講師の派遣など、教育にも貢献している。

※編集委員会注：発酵させた麦わら培地

きのこ・・・食べる趣味

村川 武雄

S氏は米国より仕事の打ち合わせで来日した。会うのは勿論初めてであった。夕食時に趣味を尋ねると、きのこの観察、収集、食べる事だと言う。私もきのこに関心があると話しているうちに、初対面でなく以前からの友達のように話がはずんだ。その後、S氏からは米国のきのこの図鑑が送られてきた。私も日本のきのこの図鑑を送った。私は専門の微生物の延長線上できのこに関心を持っていたが、どうしてもっと早くきのこを食べることに興味を持たなかったのかと思った。

それからは、外国へ出張の時、食事はきのこを材料にした料理を選ぶようになった。きのこのシーズンにイタリアへ行った時が一番楽しい。きのこの名前はわからない。しかし、そんなことはどうでもよい。いろいろなきのこの料理を見つけるのが楽しみだ。美味しければなおよい。大きな黒褐色のきのこがバターと薄い塩味でグリルされているのが好きになった。

S氏はきのこの収集のために冷凍庫を持っているという。きのこを食べると言う趣味は、どのように楽しむのかという手紙を出したら、集めたキノコを工夫して料理する楽しみ、それを味わう楽しみであるという。間もなく料理の本が送られてきた。

その本は「Joe's Book of Mushroom Cookery」、著者は Jack Czarnecki, Atheneum 出版社 (ニューヨーク) であった。340ページにわたってきのこの集め方、買い方、保存の仕方、料理に合うきのこの説明など、また料理はスープからデザートに至るまで本当に沢山書かれている。最後に米国中のきのこの研究・趣味の団体のリストが付けられている。

この本によると、料理によいきのこととして27種が秀、優、良、可に区分されて最適の料理方法と共にリストされている。この中にマツタケも含まれているが、評価は「良」である。「秀」と評価されているものは5種あり、1. *Cantharellus cibarius* (アンズタケ) 2. *Craterellus cornucopioides* (クロラッパタケ) 3. *Morchella esculenta* (アマガサタケ)とその仲間 4. *Boletus edulis* (ヤマドリタケ) 5. *Tuber melanosporum T. magnatum, T. gibbosum* (トリュフの仲間) という次第であった。

数多くの料理の中に、スペシャルディナーとして「きのこのづくしの晩餐」のメニューがあるので、料理方法を簡単に紹介する。

1. Fresh wild mushroom soup (野生きのこスープ)

採集したての野生のきのこをよく洗い、鍋に入れてきのこがかくれる程度に水を加え、ふたをピツリ閉めて沸騰させる。沸騰したら火を小さくして10分間煮る。水2カップにつき砂糖と塩を茶匙1杯ずつとスプーン1杯の醤油で味付けする。ネギ4.5本を細かく刻んで加え、靴ひものように細長く刻んだジャガイモを $\frac{1}{2}$ 個加え、このジャガイモが煮上がるとできあがり。

2. Sauteed mushrooms (きのこのソテー、きのこを軽くいためたもの)

材料：きのこ 250g (薄切り)、まるごとのどちらでもきのこの種類に応じて)、タマネギのみじん切り $\frac{1}{2}$ カップ、バター スプーン3杯、砂糖・塩 それぞれ茶匙 $\frac{1}{2}$ 杯、醤油 茶匙1杯。

フライパンにバターをとかし、タマネギを加えて約

1分間いため、きのこを加えて中火でさらに1分間いためる。そして、とろ火にしてきのこに熱が通るまでいためる。最後に火を強くし、生じた水がほとんど蒸発してしまうまで加熱し、砂糖、塩、醤油で味付けして出来上がり。

3. Cepe souffle (ヤマドリタケのシュフレ)

この料理はヤマドリタケの抽出液を加えて作ったシュフレ、即ち、きのこの抽出液と牛乳を、泡立てた卵白と混ぜて固めたものである。

4. Mushroom kracow style (きのこのクリーム煮)

これはメインディッシュである。

材料：きのこ (新鮮なもの、缶詰も可) 450g、乾燥したヤマドリタケ 10g、タマネギのみじん切り $\frac{1}{2}$ カップ、水 2カップ、砂糖・塩・シェリー酒 各茶匙1杯、醤油 スプーン1杯、ホイッピングクリームカップ1杯半、シェリー酒 (甘口) 茶匙 $\frac{1}{2}$ 杯。(以上4人分)

乾燥したヤマドリタケとタマネギを水と共に鍋に入れて沸騰してから30分間煮て火を止める。そして、ヤマドリタケとタマネギを取り除く。塩、砂糖、醤油、シェリー酒を加えてかき混ぜてからシチュー鍋にうつし、中火であたためる。熱くなってきたらあらかじめ洗っておいたきのこを加え、さらに3分間加熱する。鍋の周囲が泡立ってきたら、卵黄と $\frac{1}{2}$ カップのクリームをよくかき混ぜたものをゆっくり加えてよく混ぜる。そして再び周囲が泡立ってきたら火を止めて5分間放置する。固いようであればクリームを少し加えてかき混ぜる。

デザートはきのこの形のクッキーであるが、きのこは使われていないので省略する。

ヤマドリタケの代わりにシイタケとかその他色々なきのこも応用すれば面白いと思うが、まだ腕を振るう時間がみつからないので、私の楽しみは後へ延びている。

関西菌類談話会 昭和63年度大会(第262回例会)報告

とき 平成元年2月4日 (日) 14:00~17:00

ところ 京都市左京区 京都大学楽友会館

総会 (14:00~15:00)

開会挨拶 吉見昭一副会長

議長選出 司会者一任により紺谷修治氏を議長に選出

(議事)

昭和63年度事業報告、会計報告、その他の報告

1. 総務報告 横山竜夫総務幹事より下記の通り事務局報告があり、了承された。

イ. 昭和63年度の役員は昭和62年度と同じで、来年度は役員改選期に当り、平成元~2年度の役員が選出されることになる。

ロ. 昭和63年度役員会は昭和63年7月30日(京都市)、11月23日(京都市)、平成元年1月21日(京都市)に、それぞれ、行われた。

2. 庶務報告 (1) 伊藤忠義庶務幹事より昭和63年度集會行事

について下記の通り実施されたことが報告され、了承された。

イ. (第253回例会) 昭和63年5月14日 (日) 分類学講座 (第13回) コウヤクタケ (*Corticaceae*) の分類

京都府立勤労会館 講師は前川二太郎氏で、参加者42名。

ロ. (第254回例会) 同6月11日 (日) シンポジウム「菌類のサ

クセッション」芦屋市民センター 演題と演者は下記の通りで、参加者48名。

(1) 高等菌類遷移の研究における現状と問題点 村上康明氏 (スイス・ローザンヌ大学)

(2) アカマツ林に発生する高等菌類の遷移 藤田博美氏 (京都府林試)

(3) 山林火災跡地の微生物 堀越孝雄氏 (広島大学)

(4) 鹿糞における真菌類 森永力氏 (広島大学)

ハ. (第261回例会) 同12月18日 (日) スライド大会 京都市田中神社弘安殿、参加者44名。

また、昭和63年度入会者49名、退会者19名であり、昭和63年12月31日現在の会員数455名であることが、報告された。

庶務報告(2) 下野義人庶務幹事より昭和63年度採集會行事について計画通り実施されたことが配付資料に基づいて報告され、了承された。(別紙1)

3. 編集委員会報告 上田徳穂編集委員長より、「関西菌類談話会会報」No.3が昭和63年4月30日に、同No.4が10月31日にそれぞれ、発行され、両会報ともに変形B5版、8ページで、No.3を500部、No.4を550部印刷し、全会員に配布した旨の報告があり、了承された。なお、印刷費は計10万5千円で

あった。

4. 会計報告(1) 丸本龍二会計幹事より昭和63年度会計収支決算について資料に基づいて報告があり、了承された。なお、次年度への繰越金は962,395円(うち、定額貯金20万円)であった。また、特別会計についての次年度繰越金は前年度同額の10万円であることが報告され、了承された。(別紙2,3)
- 会計報告(2) 同幹事(岩瀬多佳子会計幹事の代理)より、会費納入状況について資料に基づいて報告され、昭和63年度は412,500円であり、会費収入実績と一致することが示され、了承された。(別紙4)
5. 会計監査報告 森本 繁会計監査より、昭和63年度会計収支決算報告が公正かつ明確で、誤りが全くないことを、田中昭子会計監査とともに確認した旨報告され、拍手で昭和63年度会計報告が承認された。(別紙5)

平成元年度事業計画、会計予算案、その他の審議

1. 事業計画

- イ. 集会計画 伊藤忠義庶務幹事より、平成元年度集会計画事業計画案について配布資料に基づいて提案説明があり、分類学講座、シンポジウム、スライド大会、平成元年度大会についての日程は原案通りとし、具体的実施内容については、役員会に一任することで承認された。(別紙6)
- ロ. 採集会計画 下野義人庶務幹事より、平成元年度採集会計画案について、配布資料に基づいて提案説明があり、原案通り承認された。なお、宿泊の採集会については、昨年同様に朝日の森(滋賀県朽木村)で、実施時期をやや早く行うが、実施細目については後日役員会で検討し、決定次第会員に通知することで承認された。(別紙6)
- ハ. 会報発行 上田俊穂会報編集委員長より、平成元年度の編集計画および会報発行予定について提案説明が行われ、従来通りの編集方針で、年2回(4月および10月)の発行とし、各8ページ、550部を印刷するが、郵送の都合上、変形B5版からB5版に変更することで承認された。
2. 会計予算案 丸本龍二会計幹事より、平成元年度会計予算案について、配布資料に基づいて提案説明があり、原案通り承認された。また、きのこ展(京都府立植物園との共催)に関して、必要に応じて予算措置をとることも承認された。(別紙7)
3. 次期会長の選出 横山竜夫総務幹事より、平成元年1月21日の役員会に於て会則第11条(1)に基づいて次期会長候補者を無記名投票で選出した経緯についての報告の後、役員会として最高得点者の土倉亮一氏を推薦するとの提案があり、満場一致で土倉亮一氏が次期会長に選出された。
4. 会則改正 横山竜夫総務幹事より、「関西菌類談話会会則」追加された条項は、第4条(4)および(8)、第6条(2)、第8条(4)~(6)、第9条、第12条(2)および(3)、第19条(1)および(2)である。特に会報に関する条項を新設し、編集委員長を運営幹事に含め、役員以外に「世話人」を会則中に明記した点が、主要な改正点である(別紙改正後の会則参照)。(別紙改正後の会則参照)。
5. その他 吉見昭一副会長より平成元年10月1日~15日に京都府立植物園に於て実施される予定の「きのこ展」に関西菌類談話会が共催として協力することに役員会で決定していることが報告され、会員の協力を要請するとの発言があった。なお、実行委員長 吉見昭一氏、実行委員会のメンバーが決定しているが、実施細目については、今後の役員会で検討し、後日会員に通知することが承認された。

閉会挨拶 吉見昭一副会長

講演会(15:30~17:00)

一般講演 座長 岩瀬剛二氏

1. 清水山(京都市)のコジイ林の高等菌類の生態
下野義人氏 大阪府立高槻南高等学校
2. 日本産ケシボウズタケ属について
吉見昭一氏 京都市左京区北白川仕伏町

特別講演 座長 横山竜夫氏

History and taxonomy of the genus
Lyophyllum

Dr. H. Clemençon University of Lausanne,
Switzerland

別紙1

- 関西菌類談話会昭和63年度採集会行事報告
- 〔第255回例会〕昭和63年7月10日(日)
長岡天満宮裏山採集会(シイ、カシ林) 参加者 43名
世話人 上田俊穂、高山 栄、竹田富久雄、橋屋 誠
- 〔第256回例会〕昭和63年7月31日(日)
伏見稲荷採集会(コジイ林) 参加者 32名
世話人 森本 繁雄、井坪豊明、吉見昭一
- 〔第257回例会〕昭和63年8月9日(火)~8月11日(木)
朝日の森採集会(アカマツ、コナラ林) 参加者 55名
世話人 井坪豊明、森本繁雄、山中勝次、上田俊穂、
丸西靖恵、服部 力、横山和正、大西裕司、
衣田雅人、田中千尋
- 〔第258回例会〕昭和63年9月25日(日)
鞍馬山採集会(モミ、ツガ林) 参加者 24名
世話人 吉見昭一、橋屋 誠、森本繁雄、田中千尋
- 〔第259回例会〕昭和63年10月16日(日)
京大上賀茂試験地採集会(植栽したマツ林) 参加者 48名
世話人 加藤景生、相良直彦、菊池淳一、上田俊穂
- 〔第260回例会〕昭和63年11月6日(日)
三上山方面採集会(アカマツ林) 参加者 45名
世話人 太田 明、橋屋 誠、横山和正、大西裕司

別紙2

関西菌類談話会 昭和63年度会計決算報告
1989年2月4日

〔収入〕		予算額	決算額
繰越金		784,734	784,734
会費		380,000	412,500
会場費		40,000	60,255
雑収入		60,000	189,500
別刷・要旨売上 寄付金等			[38,240] [151,260]
収入合計		1,264,734	1,446,989
〔支出〕		予算額	決算額
通信費		210,000	231,380
事務費		30,000	37,126
会場費		50,000	35,600
会議費		30,000	55,926
印刷・コピー費		50,000	2,680
謝礼		60,000	31,620
会報印刷費		100,000	105,000
会報刊行諸経費		20,000	10,000
振替手数料		1,000	1,220
雑支出		20,000	74,042
予備費		20,000	0
事業準備金(定額貯金)		100,000	100,000
支出合計		691,000	684,594

〔繰越〕

次年度繰越金 573,734 762,395
(別途に20万円貯金あり)

会計幹事 岩瀬 多佳子・丸本 龍二

別紙 3

関西菌類談話会昭和63年度特別会計決算報告

1989年2月4日

故浜田稔博士記念出版事業寄付金

(同志社女子大学 小原幹事会計担当)

[取 入]	(前年度繰越金)	100,000
[支 出]		
[差引残高]		100,000

次年度(1989年度)繰越金 100,000

運営幹事 小原 弘之
 会計幹事 岩瀬多佳子
 会計幹事 丸本 龍二

佐々木久雄, 橋屋 誠.

*日程は総会で決定されたものとは異なっております。くわしくは、P.8をごらん下さい。詳細は別紙にてお知らせします。

- 268回 9月3日(日) 箕面公園採集会
 阪急箕面駅前(10:30). シイ, カシ林.
 世話人: 上田俊穂, 竹田富久雄, 丸本龍二.
- 269回 10月8日(日) 大文字山採集会
 八神社境内(10:30). アカマツ, コナラ林
 世話人: 吉見昭一, 佐々木久雄, 森本繁雄.
- 270回 11月5日(日) 岩倉(尼吹山)採集会
 実相院バス停付近(10:30). アカマツ, コナラ林.
 世話人: 相良直彦, 加藤景生, 菊池淳一.
- 271回 12月17日(日) スライド大会(10:30~16:00).
 京都市左京区田中樋口町1 田中神社弘安殿.
 世話人: 上田俊穂, 相良直彦, 吉見昭一, 井坪豊明,
 丸西一枝, 佐々木久雄, 大西裕司,
 森本繁雄, 若林万里子.
 *各自スライドをご用意下さい。
- 272回 2月3日(日) 総会および講演会
 場所, 演題未定.
 世話人: 横山竜夫, 山中勝次, 岩瀬剛二, 下野義人,
 丸本龍二.
 *詳細は12月頃にお知らせします。
 ※右肩の°は世話人代表者を表わす。

別紙 4

会費納入状況(1988年12月31日現在)

1988年度会費収入

1985年度分	1986年度分	1987年度分	1988年度分
6,500円	16,000円	25,000円	153,000円

1989年度分	1990年度分	合 計
211,000円	1,000円	412,500円

会費未納者

1987~1989年度分	1988~1989年度分	1989年度分
14名	51名	205名

会計幹事(会費担当)

岩瀬 多佳子

別紙 5

関西菌類談話会昭和63年度会計監査報告

会計幹事より提出された現金出納帳簿, 会費納入原簿, 諸経費支出に伴う領収書等の会計書類に基づき監査を行った結果, 昭和63年度会計報告が正しいことを認めます。

1989年2月4日

会計監査 森本 肇

会計監査 田中 昭子

別紙 6

関西菌類談話会平成元年度行事予定

1989年2月4日

世話人氏名敬称略・順不同

- 263回 5月20日(日) 分類学講座(第14回)
 場所, 演者未定.
 内容 菌類分類学実験法(予定)
 世話人: 吉見昭一, 上田俊穂, 森本繁雄, 橋屋 誠,
 井坪豊明.
 *詳細は別紙にてお知らせします。
- 264回 6月17日(日) シンポジウム
 場所, 演者未定
 内容 菌根菌研究の現状と展望(予定)
 世話人: 岩瀬剛二, 山中勝次, 下野義人, 藤田博美,
 丸本龍二.
 *詳細は別紙にてお知らせします。
- 265回 7月9日(日) 近江神宮採集会
 近江神宮の奥の鳥居の前(10:30) シイ, カシ林.
 世話人: 太田 明, 本郷次雄, 横山和正, 大西裕司.
- 266回 7月30日(日) 伏見稻荷採集会.
 伏見稻荷大社参集殿前(10:30). シイ, カシ林.
 世話人: 橋屋 誠, 森本繁雄, 吉見昭一.
- 267回 8月24日(木)~8月26日(土)
 朝日の森採集会(2泊3日)
 朝日の森(滋賀県朽木村). アカマツ, コナラ林.
 世話人: 井坪豊明, 森本繁雄, 上田俊穂, 丸西靖恵,
 北岸阿佐子, 横山和正, 大西裕司, 衣田雅人,

きのこ展 10月1日~10月15日(日)
 場所 京都府立植物園 *詳細は別紙にて
 実行委員長 吉見昭一 お知らせします。

別紙 7

関西菌類談話会平成元年度会計予算案

1989年2月4日

[収入] 単位:円

繰越金	762,395
会費(@1,000×400)	400,000
会場費	40,000
雑収入	60,000

収入合計 1,262,395

[支出] 単位:円

通信費	250,000
事務費	40,000
会場費	50,000
会議費	60,000
印刷・コピー代	50,000
謝礼	60,000
会報印刷費	110,000
会報刊行諸経費	20,000
振替手数料	1,000
雑支出	20,000
予備費	20,000
事業準備金(定額貯金)	100,000

支出合計 781,000

[繰越]

次年度繰越金 481,395
 (別途に30万円の貯金)

会計幹事 岩瀬 多佳子
 丸本 龍二

関西菌類談話会会則

〔名称〕

第1条 本会は「関西菌類談話会」（以下「本会」）と称する。
英語名をKANSAI MYCOLOGICAL CLUBとする。

〔事務局〕

第2条 本会は事務局を下記に置く。
〒532 大阪市淀川区十三本町2-17-85
財団法人発酵研究所 真菌研究室内
TEL. 06-302-7281
振替口座番号 大阪5-83129

〔目的〕

第3条 本会はきのこ、かび、酵母など菌類に興味をもつ人が、菌類を通して自然に親しみ、菌類の調査、研究、利用、保護などのためにお互いに協力しつつ、知識、情報、技術などの交流を計ることを目的とする。
また、会員相互の親睦と菌類についての啓蒙を行う。

〔事業〕

第4条 本会は上記の目的を達成するために次の事業を行う。
(1) 菌類の野外観察会、採集会
(2) 菌類の同定または鑑定会
(3) 菌類の同定、分類、生理、遺伝、生態、利用などに関する講演会、講習会、研究会、展示会、研修旅行
(4) 「関西菌類談話会会報」の発行
(5) 菌類の分布調査、標本作製、分離・培養、資料などの作成と会員への配布
(6) 他の関連団体との交流
(7) その他本会の目的達成に必要な事業
(8) 本会の事業年度は毎年1月1日より12月31日までとする。

〔会員〕

第5条 本会は菌類に興味をもつ個人および本会の目的に賛同する団体により組織する。

第6条 本会の会員は下記のように定める。

- (1) 通常会員 第14条(1)に定める会費を納入する個人
- (2) 賛助会員 本会の目的に賛同し、第14条(2)に定める会費を納入する団体
- (3) 名誉会員 本会に特に功勞のあった者
- (4) 会友 上記以外で本会が必要と認めたもの

〔入会および退会〕

第7条 本会に入会を希望する者は、所定の入会申込書に必要事項を記入し、当該年度の会費を添えて本会事務局に申し込むこととする。
また退会する者はその旨文書で本会事務局に届け出ることとする。

〔役員および任務〕

第8条 本会に次の役員を置く。
(1) 会長1名 本会を代表し、会務を統括する。また、総会および役員会を召集し、その議長および書記を委嘱する。
(2) 副会長2名 会長を補佐し、会長に事故あるときはその任務を代行する。
(3) 総務幹事1名 事務局を担当し、本会の受付事務全般を行う。
(4) 庶務幹事2名 庶務全般を行う。下記については分担する

イ. 採集会事務

ロ. 集会事務

ハ. 会員名簿及び図書・備品管理

(5) 会計幹事2名 会計事務を行う。下記については分担する。

イ. 経理・現金出納事務

ロ. 会費請求・領収事務

(6) 運営幹事若干名 本会の事業の立案、実施を行う。運営幹事に、集会総括責任者、採集会総括責任者、会報編集委員長、各1名をおく。

(7) 会計監査2名 会計事務の監査を行い、総会に於いてその結果を報告する。

〔世話人および顧問〕

第9条 本会運営のため、必要に応じて世話人を置くことができる。

第10条 本会には必要に応じて顧問若干名を置くことができる。

〔役員会〕

第11条 役員会は会長の召集する会員をもって構成する。

〔役員等の選出および任期〕

第12条 (1) 会長は役員会の推薦に基づき、総会で出席者の過半数の賛成をもって選出する。
(2) 副会長、その他の役員は会長が委嘱する。ただし、副会長は会長が必要とする場合にのみ委嘱することができる。また、会報編集委員若干名を、会報編集委員長の推薦に基づき、会長が委嘱する。
(3) 役員および世話人・編集委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
(4) 役員に欠員が生じた場合はその補欠を行う。ただし、補欠された役員の任期は前任者の残任期間とする。

〔総会〕

第13条 総会は年1回会長が召集し、役員選出、予算、決算ならびに本会の事業実施上の重要事項について、出席者の過半数をもち議決する。総会の議長および書記は会長が会員中から各1名を委嘱する。会長が必要かつ緊急と認めた場合には臨時に総会を開くことができる。

〔経費〕

第14条 本会の経費は会費、寄付金、預貯金利子その他をもってこれに当てる。

〔会費〕

第15条 本会の会費は下記のように定める。

- (1) 通常会員 年額 1,000円
- (2) 賛助会員 年額 5,000円

第16条 会費は前納制とする。ただし、一度納入した会費は返還しない。
会費を3年間納入しない場合は退会したものと見なす。

第17条 講演会、採集会その他の集会に於いて、必要に応じて参加者から参加費を徴収し、必要経費に当てることができる。

第18条 本会の会計年度は毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

〔会報〕

第19条 (1) 会員には会報を無償で配付する。

- (2) 会報編集委員長は、会報編集委員会を構成し、会報の編集を行う。

【付則】

第20条 (1) この会則の改正および本会の事業実施上の重要事項の改廃は役員会で審議し、総会に於いて出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

- (2) その他本会則に定めのない問題は役員会に於いて処理し、総会に報告し承認を得ることとする。
(3) 本会則は昭和58年10月8日より施行する。
(昭和61年2月1日一部改正、同日より施行)
(平成元年2月4日一部改正、同日より施行)

事務局からのお知らせとお願い

事務局所在地と担当者がかかりました。

ご無理を言って、ながらく事務局を財団法人発酵研究所真菌研究室内に置かせて頂き、横山竜夫氏に事務局担当の総務幹事をお願いしてきましたが、諸般の事情でこの4月から下記のように変わりました。どうかよろしくお申し上げます。

記

関西菌類談話会事務局

〒618 大阪府三島郡島本町桜井台15-1

大阪府立島本高等学校内

電話 (内) 075-962-3265

(上田を呼び出して下さい)

【訂正：過日お送りしました「事務局等の移転のお知らせ」中、新事務局所在地の番地及び郵便番号が間違っておりました。お詫びと共に、上記の通り訂正します。】

宿泊採集会の日程を変更しました。

関西菌類談話会会報 No. 5 (本号) に、「昭和63年度大会の

報告」があります。その中の「関西菌類談話会平成元年度行事予定」中、第267回「朝日の森採集会」の日程が総会で決定されたものとは異なっております。総会では8月4日(金)～8月6日(日)と決定しました。しかし、この日程で、「朝日の森」の予約が出来なかったため、3月18日に役員会を開いて、止むを得ず日程を8月24日(木)～8月26日(土)に変更しました。本来なら臨時総会で日程変更をすべきですが、経費や準備の都合で役員会にて決定しました。ご了承頂ければ幸いに存じます。

手落ちにより、総会での決定を変更せざるを得なくなったことをお詫び申し上げます。

なお、過日お送りいたしました「1989年関西菌類談話会行事予定」には変更後の日程になっております。

お願い

住所、所属等の変更は必ず、速やかに事務局へはがきでご連絡ください。ご連絡がないために郵便物が戻ってくる場合がありますが、こちらから連絡のしようがありませんので、どうかよろしくお願いいたします。

関西菌類談話会会報投稿案内

1. 投稿は原則として本会会員に限ります。
2. 原稿の採否、掲載の順序は編集委員会の決定にお委せください。
3. 編集委員会は、著者に原稿中の字句、表、図、写真などのスタイルの統一や変更を求めることがあります。文章の用法上、あるいは文法上の誤り、その他の修正は編集委員会にお委せください。
4. 原稿には表題、著者名、本文の他に必要なら引用文献(あるいは参考文献)をあげてください。
5. 別紙に著者名、連絡先、住所、電話番号を書いて添付してください。
6. 著者校正は初校だけとし、2日以内に原稿正本とともに速達郵便で返送してください。
7. 掲載された原稿はお返ししませんが、図・写真に限り著者校正のときお返しします。
8. 写真製版料実費は著者の負担とします。
9. 原稿は会報編集委員長宛てにお送りください。

～皆様の投稿をお待ちしております～

- ◇ かびやきのこに関する記事、図、本誌に関するご意見などをお寄せください。
- ◇ 図は黒インクで、少し大き目(刷り上がりの約1.5倍)にお書きください。(ボールペンは不可です)
- ◇ 原稿の分量は400字づつ原稿用紙4～5枚程度としますが、1枚でも半分でも結構です。
- ◇ 写真の掲載を希望される方は、編集委員長におたずねください。
- ◇ 原稿宛て先

〒612 京都市伏見区深草西出町25-4

関西菌類談話会会報編集委員長

森本 繁雄

TEL. 075-641-3729

編集委員：山中 勝次、井坪 豊明、橋屋 誠、丸西 靖恵。(順不同)

元 関西菌類談話会会長 山本昌木先生は5月4日、ご他界されました。つつしんでおくやみ申し上げます。

関西菌類談話会会報 No. 5

1989年6月1日 印刷

1989年6月1日 発行

編集 関西菌類談話会会報編集委員会

発行 関西菌類談話会

発行所 関西菌類談話会

事務局 〒618 大阪府三島郡島本町桜井台15-1

大阪府立島本高等学校内

電話 (内) 075-962-3265

振替 大阪 5-83129

印刷所 橋本印刷

〒600 京都市下京区松原通御前東入下ル